

ファミリーシリーズvol.2

family series



つり合わない
くびきについて語ろう

ジョン・グラント [著]

let's talk about
THE UNEQUAL YOKE

by John Grant

Let's talk about
THE UNEQUAL YOKE

by
John Grant

The John Ritchie family series

Publisher
Evangelical Publishers
Tokyo, Japan

目次

1. はじめに	5
2. 聖書の教え	9
3. 結婚におけるつり合わないくびき	12
4. 仕事や商売上のつり合わないくびき	22
5. 宗教上のつり合わないくびき	24
6. その他の集まり	26
7. 聖書の事例	27
8. おわりに	30

1. はじめに

彼の生い立ちは非常に恵まれたものでした。彼が引っ越して来たとき、その町の住民たちは彼が信用できる人物だとわかりましたが、そのようなことは、この町では、めったにないことでした。彼があたりを見回すと、そこは、定住するのに理想的な場所に見えました。それまで住んでいた所よりも、はるかに有望で魅力的な地域に思えました。町の住民たちには嫌悪感を抱くこともありましたが、その地の魅力と都会のスリルで帳尻を合わせることができました。彼の妻や子どもたちは、そこにすっかり溶け込みました。彼は、すぐに周囲に影響を及ぼし、存在感を示しました。彼は成功し、やがて地元の名士となり、ついに、その町の長に任命されました。家族のためにも、万事うまくいっているように思えました。何一つ足りないものはなく、その地に移住したことによって繁栄だけがもたらされたように思えたのです。

けれども、彼の心が深い悲しみに満ちていたことを町の住民たちは知りませんでした。暴力、不道徳、不敬虔な行いが、来る日も来る日も彼を悩ませました。何もかもが違っていた昔を振り返ると、なおさら胸が痛みました。彼は、まことの神を敬う人々といっしょに暮らしていたときのことを思い出しました。彼のおじは「神の人」でしたが、そのような人のそばにいたことができたころを懐かしみました。彼は、おじのもとを去って、この地で家庭を築いたのですが、もしかしたら、そのことを後悔したかもしれません。しかし、もう後戻りすることはできませんでした。それほど町の住民たちと強いきずなで結ばれていたのです。娘たちは現地の人の家に嫁いでいました。彼の生活はソドムという町を中心に営まれていたのです。——この人物の名前は「ロト」です。

ロトの姿は何と悲しいものでしょう。彼は不信者となり合わないくびきをともしてしまいました。若いころは有望でしたが、今や、神に仕える力はありません。彼は、経済面・職業面と家庭生活面で、つり合わないくびきを負いました。最初のころは、それによって得た富と名声を喜んでいましたが、次第に楽しくなくなり、悩みの種が増え、暗い影が忍び寄ってきたのです。

ロトが無力であることが明白になったのは、さばきの日がやって来たときでした。ソドムに神のさばきが下ることが伝えられたとき、ロトといっしょに彼の家族も逃げなければならなかったのですが、彼らは町を出て行くのを嫌がったのです。

このことから私たちは何を学ぶべきでしょうか。第1の教訓は、世の人々と親密な関係を築いたとしても、それによって私たちが尊敬されるわけではないということです。ロトはソドムに良い影響を与えることができると思ったのかもかもしれませんが、町の住人たちは彼を無視して、わが道を行きました。彼には、その地域の行動基準を改善することも、人々に社会規範を守らせることもできませんでした。ロトのところに立ち寄った2人の人に悪さをしようと暴徒が彼の家の戸口までやって来たとき、ロトは2人を守ろうとしましたが、そのときも、ソドムの人々が彼に敬意を払っていないことが明らかになりました。

そのうえ、ロトの家族も彼を尊敬していませんでした。彼の家族は、妻が1人、既婚の娘が少なくとも2人、その夫たち、そして、未婚の娘も2人いたようです。けれども、彼といっしょにソドムの町を脱出できたのは、そのうち2人の娘だけでした。世の友となったがために、あまりにも高い代償を払ったのです。

この話は創世記の13章と19章に出てきます。ロトは、最後に出てくる場面では泥酔していて、自分がみだらな行為をしていることに気づいていません。彼は、手に入れたものとソドムで築き上げたものをすべて失いました。

幸先のよいスタートを切ったのに、どうして、ここまで落ちぶれてしまったのでしょうか。それは、彼が世を愛したからです。そして、その結果、彼の家族全員が不信者と“つり合わないくびき”を負ったからです。

不信者と親密になるのは危険なことですから、特に気をつけてください。これは非常に大切な問題ですから、聖書が何と教えているかを知らなければなりません。

今日のつり合わないくびき

現代のクリスチャンは複雑な社会に生きているので、結婚、仕事、子育て、休日の過ごし方などで多くの決断を迫られます。むずかしい問題に直面する場合が多く、先行きが見通せないときもあります。しかし、

不信者と親密になるのは危険なことである！

大きな決断を下すときは、“つり合わないくびき”のことを必ず考慮に入れなければなりません。

若い信者の意見



若い信者は、自分の両親や年配の信者たちが偏狭な考えを持っているように思えて、彼らの人生を「あまりにも制限されたもの」とみなしがちです。興味や関心の幅が狭く、交友関係も限られ、そのために人生で多くのものを失っているように思うのです。

クリスチャンホームで育った人がクリスチャンとノンクリスチャンの違いを理解していないとしたら、それは危険なことです。自らを聖別するとか、この世と一線を画するとかいうのは古

くさい考えで、人生の楽しみを奪うものだと思うからです。ある家庭の子どもたちは次のように考えるかもしれません。「両親が選んだ生き方は、その時代には良かったが、今は、いろんなことが変わった。今日の若者は、もっと機会に恵まれている」と。それゆえ、クリスチャン以外の人たちとの関係も変わって当然だと思うのです。

このように考える人は、この世から分離した人生が最高の人生であることを理解していません。クリスチャンは、自分の世界が狭いわけでも、退屈で味気ない生活を送っているわけでもありません。そうではなく、そのライフスタイルは、未信者が知ることのない喜びを与えてくれるものなのです。

「この古くさい生き方が福音伝道の妨げになっている」と感じている人もいるかもしれません。確かに、社会から孤立していれば、福音を証しできないのは当然のことですが、聖別とは、そのような人生を送ることはありません。聖書は、孤立主義者のような生き方を勧めているわけではありません。

この真理を理解せずに重要な決断を下すと、神にとって役に立たない者になってしまいます。そして、そのことをひどく後悔する日がやって

聖別とは、孤立して生きることではない

来るでしょう。

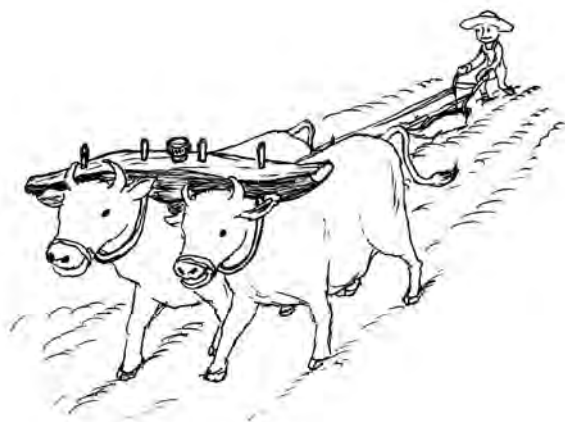
年配の信者の危険

若い信者たちだけが、この真理を軽んじているわけではありません。どの世代にも、この世との距離感が次第に変わってしまう人があるからです。さまざまな問題に出くわして重圧を感じたりすると、「この世と結びつくのを避けたい」という願いがなくなってしまいます。何かを手に入れることのできる機会が訪れて、世とのきずなにも利点があると思ひ込み、ゆがんだ見方をするようになります。昔は決してしなかったようなことをして、「若いころは考え方が極端だったから」と言い訳したりします。しかし、それでよいのでしょうか。

この問題を考察するにあたって、まず、次のように問わなければなりません。つり合わないくびきとは、そもそも、どういう意味なのでしょう。聖書が何と教えているか、いっしょに調べてみましょう。

2. 聖書の教え

「不信者と、つり合わないくびきをともにしてはいけません」（Ⅱコリント 6:14）。



「くびきをともにする」とは、共通の目的をもって行動を共にすることです。その目的のために、行動の自由は制限されます。相手の同意がなければ、何もできないからです。

まず思い浮かぶのは、2頭の動物（たとえば雄牛）がつなぎ合わされて土地を耕している姿でしょう。

共通の目的を果たすために、自由は制限されています。相手の同意がなければ、一歩も動けません。もちろん、くびきにも利点はあります。単独では不可能なことも、協力すれば可能になるからです。ですから、くびきを負うことの本質は共同作業にあると言えるでしょう。私たちは、たくさんの仕事を抱えているので、このような対処の仕方を魅力的に思うに違いありません。

しかし、パウロが警告しているように、クリスチャンには、踏み越えてはいけない最後の一線があります。信仰を持っていない人と、決してくびきをともにしてはいけないのです。不信者と目的を共有するようなことをすれば、相手が同意することしかできなくなります。クリスチャンは主イエスがあがめられることを優先しますが、不信者には、そのような考えはありません。ですから、必ず妥協しなければならなくなるのです。

クリスチャンには、踏み越えてはいけない最後の一線がある



目次

- 1 はじめに
- 2 聖書の教え
- 3 結婚におけるつり合わないくびき
- 4 仕事や商売上のつり合わないくびき
- 5 宗教上のつり合わないくびき
- 6 その他の集まり
- 7 聖書の実例
- 8 おわりに

550円(税抜価格500円)
ISBN978-4-901415-43-9

 伝道出版社